

課題解決型インターンシップ

20プロジェクト展開 学生約200人が参加

5月から本格的にスタートした今年度の「課題解決型インターンシップ」(キャリアデザインセンター主催)は20プロジェクトが展開され、学生約200人が参加している。学生は地域の団体や商店街、自治体、企業とかわり、チームワークを発揮してどんな課題を見つけ解決を追求したのか。試行錯誤と手ごたえの跡を、5チームの活動から紹介する。

川崎市場エコフェスタに参加

秋の好天に恵まれた11月10日、川崎市中央卸売市場北部市場(宮前区水沢)の広場で開かれた「北部市場エコフェスタ2013」に本学学生5人が参加、同市場のエコロジー活動を紹介するとともに、親子で学ぶ「実験・体験コーナー」を設けて盛り上げた。参加した学生は、大波俊さん(人間科学3)をリーダーに猪子達弘さん(経済2)、福岡亜希さん(商3)、佐藤大樹さん(同)、渡部健太(文4)さんの5人。川崎市経済労働局中央卸売市場北部市場管理課が受け入れ先となり、同市の社会福祉法人「同愛会」の協力や指導の下、学生ならではの着眼点でPRに励んだ。学生たちはさまざまな取り組みを紹介。中でも人気だったのは、オレンジの皮(オレンジオイル)による廃発泡スチロールのハンコ作りコーナー。98%が空気という特性を生かし、オレンジオイルで溶かすことでハンコのくぼみを作り図柄とさせる。「面白い」「年賀状に使えそう」と子どもたちの声飛び交った。



大波さん



ハンコ作りコーナー

そのほか、廃発泡スチロール場内処理によるリサイクルの展示、木製パレットや剪定枝を使ってスマートフォン用の蓄電ができるバイオマス発電燃料化体験コーナー、生ゴミを微生物分解する処理機も紹介し、訪れた人たちの注目を集めた。さらに学生たちは市民を啓蒙するエコ化プロジェクト「リフレット」(封筒に再利用)も作った。また、枝で作った手づくりのクリスマスグッズブレゼントは好評。鉛筆ケースは、あっとい間になくなった。

同市場は、野菜や果物の青果部、海産物の水産物部、植物の花き部のほか、多彩な関連商品を扱っており、料理店プロや仲買人のほか一般客も多く利用する。毎日大量に出る発泡スチロールや廃材(木製パレットや市場内の木を切る際に出る剪定枝)を再利用し、環境にやさしい「エコ市場」を目指して、省エネ・省資源、環境対策、廃棄物のリサイクル・減量化に取り組んでいる。

大波さんらは同市場の取り組みに着目。「環境に配慮した姿勢は市民にあまり知られていない。もっと広めて、市民がエコを考えるきっかけにしてもらいたい」と、今春から準備を進めた。生田キャンパスから歩いて数十分ほどの同市場に何度も足を運び、川崎市の「エコ暮らし未来館」や「バイオマス発電所」を訪ねてエコの基本を勉強した。

中央卸売市場北部市場管理課の鈴木勇二係長は「若い人の目の付け所やアイデアに期待しました。予想通り、いい仕事をしてくれました」と専大生の奮闘をたたえた。当日、同市場では並行して第32回宮前区民祭・北部市場まつりも開催された。20万人の市民でにぎわった。

住みたい寮って？

学生寮、社員寮の事業などを行う(株)共立メンテナンス(本社・東京都千代田区)からの課題「1棟まるごとプロデュースして住んでみたい寮、ってどんな寮？」に取り組んだのは、杉山拓也さん(経済3)をリーダーとする24人だ。「これから入学してくる後輩のために先輩から良い寮を提案したい」と、専大生の視点から魅力ある寮を考えた。



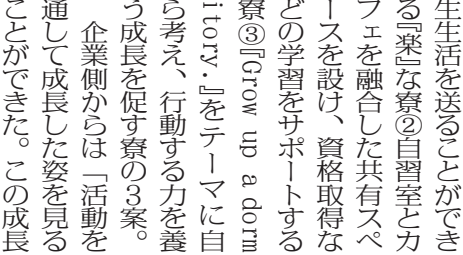
最終発表会でのプレゼン

12月4日には同本社で最終発表会が開かれ、同社の寮事業部の社員ら約20人を前に、プレゼンテーションを行った。提案されたのは①「夕飯総選挙」などの楽しい



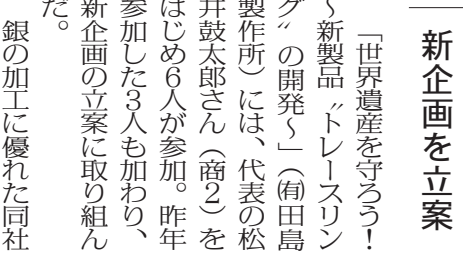
製作したパンフレット

佐伯達也さん(経営3)は「長期間にわたる実践的なインターンシップで、社会人の方と接する機会も多く、話し方などで勉強になりました」と活動振り返り、杉山さんは「良い経験をする事ができ、受け入れていただいた企業の方と一緒に活動してきたメンバーは、多くの方に感謝しています」と話した。



製作したパンフレット

「世界遺産を守ろう！新製品『トレスリン』の開発」(岡田島製作所)には、代表の松井鼓太郎さん(商2)をはじめ6人が参加。昨年参加した3人も加わり、新企画の立案に取り組んだ。



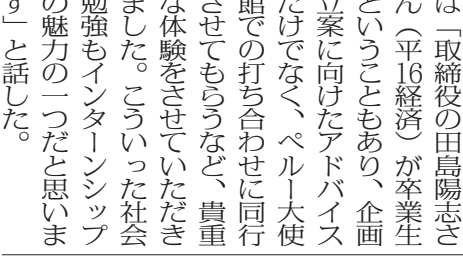
新企画を立案

沖縄、バルト海、バリ島の自然保護を目的とした三つの企画を立案した。なかでも、「沖縄のサンゴ礁保護」をテーマとした企画は「問題が身近で、実現性が高い」と、高い評価を受け、9月からこのプロジェクトの実現に向け、活動に取り組んできた。ウミガメやサンゴなどをモチーフにした図案を考え、現在は試作品の製作が進められている。



成果発表会で

「取締役の田島陽志さん(平16経済)が卒業生ということもあり、企画立案に向けたアドバイスだけでなく、ペルー大使館での打ち合わせも同行させてもらうなど、貴重な体験をさせていただきました。こういった社会勉強もインターンシップの魅力の一つだと思います」と話した。



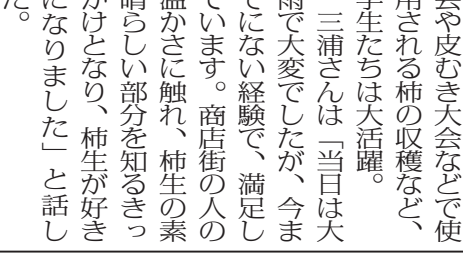
成果発表会で

3月3日、生田キャンパスで開催された。8回目の「自分で考え行動する力」テーマに成果発表会



当日の様子

実施となる今年度は、20チームが「自分で考え行動する力」をテーマに、活動の成果をまとめたポスターや開発に携わった商品などを展示した。当日は鳳祭、オープンキャンパスが開催中で、教員、企業関係者、高校生ら合わせて約600人が各ブースを訪れた。学生たちは来場者と対話しながら質疑応答した。



当日の様子

企業向け環境貢献活動を宣伝

太田達郎さん(経営3(商1))、森勇介さん(商3)、新井有紀菜さん(商3)の3人は、環境ビジネスコンサルティング会社RAUL(ラウル)(株)(東京・新宿)が進める企業向け自然環境貢献活動「グリーンサイトライセンス(GSL)」のPRに取り組んでいる。GSLはホームページの環境認証サービスで、「中小企業のCSR(企業の社会的責任)活動を後押しするもの」。太陽光発電の推進、海外での植林活動、カーボン・オフセットのいずれかを選んで契約すると、同社が紙に書き出し、足を止めた来場者にパソコンやパ

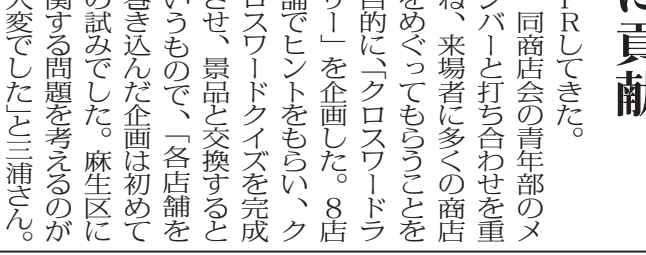
は自社のホームページにその認証マークを掲げることで、環境保護活動への支援を打ち出せる。ITを活用した環境ビジネスを企業にどうやって売り込むか、メンバーの3人は手探りを続けた。「人数も予算も少ない中、ネットで大きなイベントを検索したら学生の出席料が無料だった」と、太田さんという「エコメッセージ2013 in」(9月28日、千葉・幕張メッセ)を見つけ、活躍する機会を得た。GSLの仕組みを模造紙に書き出し、足を止めた来場者にパソコンやパ

ンフレットを使って説明写真。子どもにも分かりやすいように新井さんは紙芝居を作った。「できれば契約までこぎつきたい」と意気込んで、説明を聞いてくれた約80人は残念ながらもすべて一般客。それでも、環境への思いを短く綴ったメッセージコーナーを設けるひと工夫で、太田さんと森さんは来場者と環境問題について会話を弾ませた。「お客さんと自然な会話ができるのはさすが3年次。先輩に囲まれプレッシャーでしたが勉強になりました」と話した(新井さん)。

三浦健吾さん(経済2)ら4人は、「禅寺丸柿まつり」(10月20日、川崎市麻生区・柿生駅南口広場)でイベントの企画・運営を行い、地域の活性化に貢献した。4人は柿生中央商店会からの課題である「地域資源『禅寺丸柿』を活かす」に取り組んだ企画は初めての試みだった。麻生区に関する問題を考えるのが大変だったと三浦さん。ほかに、柿アイスのレシピの配布、会場設営や交通誘導、種とはし大会や皮むき大会などで使用される柿の収穫など、学生たちは大活躍。

三浦さんは「当日は大雨で大変でしたが、今までにない経験で、満足しています。商店街の人の温かさに触れ、柿生の素晴らしい部分を知るきっかけとなり、柿生が好きになりました」と話した。

同商店会の青年部のメンバーと打ち合わせを重ね、来場者に多くの商店をめぐってもらうことを目的に、「クロスワードラリー」を企画した。8店舗でヒントをもらい、クロスワードクイズを完成させ、景品と交換するというもので、「各店舗を巻き込んだ企画は初めての試みでした。麻生区に関する問題を考えるのが大変でした」と三浦さん。ほかに、柿アイスのレシピの配布、会場設営や交通誘導、種とはし大会や皮むき大会などで使用される柿の収穫など、学生たちは大活躍。



当日の様子

地域活性に貢献